

「medicina」第20巻 総目次

1983年 第1号～第13号

数字は通巻頁数、()内は号数、12号は臨時増刊特集号です。

〔今月の主題〕

心筋梗塞のハイライト(1)

心筋梗塞は予知できるか

太田 怜 6

〈発 症〉

心筋梗塞発症のメカニズム

河合 祥雄・他 8

不安定狭心症の経過と予後

土師 一夫 16

冠動脈造影からみた心筋梗塞の発症

藤井 諄一・他 18

〈検査法〉

心電図と病理所見 堀江 俊伸 24

^{99m}Tc-PYP 梗塞部シンチ

益海信一郎・他 30

TI シンチ 立木 楷・他 32

心臓瘤とCT 増田 善昭・他 36

〈特殊な心筋梗塞〉

高位後壁梗塞 村松 準 38

右室梗塞 中村 芳郎・他 40

心房梗塞 土肥 豊 42

〈予 後〉

CCU における心筋梗塞の経過

長谷川 貢・他 46

陳旧性心筋梗塞の長期予後

友田 春夫 48

〈治 療〉

NG-UK 冠動脈内注入療法

西村 健司・他 50

急性期冠動脈形成術

遠藤 真弘・他 53

機械的合併症に対する治療

伴 敏彦・他 56

末梢血管拡張薬 木全 心一 58

心筋梗塞とβ遮断剤 蔵本 築 60

回復期のリハビリテーション

定 利勝・他 62

社会復帰 斉藤 宗靖 64

〈鼎 談〉

心筋梗塞をめぐって

加藤 和三・細田 瑳一

太田 怜 69

今月の主題・理解のための10題

太田 怜 82

免疫からみた腸疾患(2)

腸疾患の現況 川井 啓市 192

〈腸の免疫機構〉

腸リンパ組織の形態学

名倉 宏・他 194

腸リンパ組織の免疫反応

吉田 豊・他 202

分泌性IgAの構造と分泌機構

磯辺 善成 204

分泌性IgAの機能 谷内 昭 206

その他の免疫機構 細田 四郎・他 208

〈腸内感染症と免疫〉

細菌 神中 寛 210

ウイルス 喜多村 勇 212

寄生虫 小林 昭夫・他 216

〈腸疾患の臨床〉

潰瘍性大腸炎 土屋 雅春・他 218

クローン病 小林 絢三 220

消化管アレルギー 近藤 元治・他 222

膠原病、パーチェット病

岡田 純・他 226

原発性免疫不全 加納 正・他 228

続発性免疫不全 朝倉 均・他 230

腸 癌 漆崎 一朗・他 232

〈腸疾患とHLA〉

炎症疾患 井上 幹夫・他 236

腫瘍疾患—大腸癌とHLA

辻 公美・他 238

〈腸疾患の治療〉

免疫療法 児玉 宏・他 240

〈座談会〉

腸疾患と免疫

名倉 宏・神中 寛

谷内 昭・黒江 清郎

朝倉 均 243

今月の主題・理解のための10題

朝倉 均 256

呼吸不全—その実態と治療(3)

呼吸不全—その考え方 横山 哲朗 354

〈概 念〉

準呼吸不全—その臨床的意味

吉良 枝郎 356

肺性心—呼吸不全の終末像

渡辺 昌平・他 360

〈診 断〉

呼吸不全の診断 横山 哲朗 362

〈実 態〉

呼吸不全の原因疾患 川城 丈夫 368

呼吸不全の実態 芳賀 敏彦 372

呼吸不全発症予防の対策

山林 一 378

呼吸不全の予後 原澤 道美・他 380

神経・筋疾患と呼吸不全

松尾 宗祐 384

〈治 療〉

呼吸不全の治療—考え方

と治療計画の立て方 長野 準 386

気管内挿管—方法と適応

加藤 敬徳・他 390

気管切開のタイミング 佐川弥之助 394

酸素療法 相馬 一亥 396

感染対策 小西 一樹・他 402

輸液と電解質管理 福井 俊夫 408

機械的人工呼吸 天羽 敬祐 410

ウィーニングのコツ 木村謙太郎 412

右心不全の対策 岩崎 栄 414

レサニテーション 森岡 亨 416

〈リハビリテーション〉

呼吸不全患者のリハビリテーション

—考え方 谷本 普一・他 418

—具体的に何を

すべきか 千野 直一 420

在宅酸素療法 荒井 達夫 422

脾疾患診療のトピックス(4)

脾疾患診療の現状 竹内 正 530

脾癌取り扱い規約について

土屋 涼一・他 532

〈形態学的診断法〉

ERCP—慢性脾炎の診断基準

大井 至 538

US—穿刺吸引細胞診の臨床的意義

山中 恒夫・他 542

血管造影法—小脾癌の診断限界

有山 襄・他 545

CT—脾炎と脾癌の鑑別 板井 悠二 548

PTC—脾病変による総胆管の変化

税所 宏光・他 552

脾生検—慢性脾炎の病理診断

小沼 一郎・他 554

〈生化学的診断法〉

PST—診断基準と過分泌 神津 忠彦 556

PFD—臨床上的位置づけ

衣笠 勝彦・他 558

血清脾酵素誘発試験—脾特異性

に関する考察 須賀 俊博・他 560

脾癌の腫瘍マーカー—RNaseを中心に

大山 公三・他 562

純粋脾液分析—診断的意義

原田 英雄・他 564

アミラーゼ・アイソザイム—その解釈

小川 道雄 566

ACCR—メカニズムと臨床的意義

石原 敬夫 570

エスラスターゼ・イムノアッセイ

—臨床的意義 佐竹 克介 572

〈治 療〉

脾臓痛のコントロール

神 敏郎・他 576

脾全摘—脾炎における適応

高田 忠敬 578

脾疾患患者への人工脾島の応用

七里 元亮・他 580

MMC 徐放性カプセルによる

切除不能脾癌の治療

羽生富士夫・他	582
〈トピックス〉	
糖尿病一併内外分泌相関	
早川 哲夫	584
セクレチン, パンクレオザイミン	
のRIA 白鳥 敬子・他	586
多発性内分泌腺腫症(MEN)-Type 1	
大根田 昭	588
膵の発生異常一膵管形成異常	
土岐 文武	590
アミラーゼ産生腫瘍	
滝山 義之・他	594
〈座談会〉	
膵疾患のプライマリ・ケア	
高田 忠敬・黒田 慧	
有山 襄・神津 忠彦	597
今月の主題・理解のための10題	
神津 忠彦	610
水と電解質(5)	
測定機器の進歩と問題点	
長谷川 博	696
〈調節因子とその異常〉	
抗利尿ホルモン 中尾 彰秀・他	698
アルドステロン 小島 元子・他	702
プロスタグランディン	
飯野 靖彦・他	704
PTH, ビタミンD, カルシトニン	
松本 俊夫・他	708
インスリン, グルカゴン	
寺尾 統彦・他	712
甲状腺ホルモン 紫芝 良昌	714
性ホルモン 福田 祐幹	718
〈電解質異常の実際〉	
高Na, 低Na血症	
野中 達也・他	720
高K, 低K血症 浅野 泰・他	724
高Ca, 低Ca血症 多久和 陽・他	726
高P, 低P血症 小椋 陽介	732
高Mg, 低Mg血症	
吉田 政彦・他	734
Cl, Anion gap の異常	
前波 輝彦・他	736
浮腫と脱水 水村 泰治	740
特異性浮腫 福田 祐幹	742
〈病態と電解質代謝〉	
肝性昏睡, 腹水 猿田 享男	744
高血圧 藤田 敏郎	746
心筋・骨格筋の異常	
石川 兵衛・他	748
中枢神経障害 黒田 満彦・他	750
薬剤による電解質異常 木野内 喬	752
〈電解質異常と治療法の相互関係〉	
輸液 高橋 文夫・他	754
利尿薬 折田 義正	758
透析療法 下条 文武・他	760
栄養と電解質 出浦 照國	764
〈鼎談〉	
臨床における水と電解質	
加藤 映一・丸茂 文昭	

越川 昭三	766
今月の主題・理解のための10題	
越川 昭三	780
内科医に必要な救急治療(6)	
変貌する救急医療 恩地 裕	884
〈座談会〉	
救急医療施設の現状と問題点	
丸茂 裕和・大久保忠訓	
太田 宗夫・大塚 敏文	887
〈救急のためのモニター〉	
意識障害のみかた 古橋 紀久	902
血行動態の観察 金子 正光	908
危険な不整脈 早川 弘一・他	912
腹部X線像 斎藤 和彦・他	914
血液ガス分析 福井 俊夫	918
酸塩基平衡と電解質 横山 剛	920
〈救急治療の実際〉	
心肺蘇生法 川田 繁	924
ショックと心臓喘息 木全 心一	926
急性呼吸不全 工藤 一大・他	928
クモ膜下出血 大谷 光弘・他	930
脳卒中 荒木 五郎	934
心筋梗塞急性期 深見 健一・他	938
解離性大動脈瘤 田村 康二	942
救急を要する不整脈 杉本 恒明	944
気管支喘息 可部順三郎	946
消化管出血と穿孔 岡部 治弥	948
イレウス 山本 修三	950
劇症肝炎と肝昏睡 涌井 和夫	952
腎不全 伊良部徳次・他	954
糖尿病性昏睡と低血糖	
七里 元亮・他	956
今月の主題・理解のための10題	
太田 怜	960
不整脈のトピックス(7)	
〈不整脈の基礎〉	
Triggered-activity とリエントリー	
平岡 昌和	1064
Ca イオンと不整脈 有田 真	1070
動物不整脈モデル 橋本敬太郎	1074
マッピングと不整脈 外山 淳治	1076
逆問題 真島 三郎	1080
〈電気生理学的検査〉	
洞房結節機能 山口 巖・他	1082
房室伝導(リス束心電図)	
深谷 真彦	1086
早期興奮症候群の電気生理検査	
比江嶋一昌	1090
心室性頻拍の誘発 笠貫 宏	1093
〈ホルター心電図と応用〉	
ホルター心電計の進歩	
洞庭 賢一・他	1096
ホルター心電図からみた	
頻脈不整脈 矢永 尚士・他	1098
ホルター心電図からみた	
心室性期外収縮 小林 明	1102
ホルター心電図からみた	
徐脈性不整脈 加藤 貴雄・他	1104

ホルター心電図による	
抗不整脈薬の効果判定	
田辺 晃久	1108
〈抗不整脈薬〉	
抗不整脈薬の薬理学的分類	
西尾 昌恵・他	1110
抗不整脈薬の血中濃度と作用	
小西 與承	1112
抗不整脈薬の副作用 杉本 恒明	1115
新しい抗不整脈薬 加藤 和三	1119
〈不整脈と外科〉	
プログラマブルペースメーカー	
横山 正義	1122
不整脈の外科治療 三崎 拓郎・他	1124
〈鼎談〉	
不整脈の治療の実際	
春見 建一・中田八洲郎	
早川 弘一	1130
今月の主題・理解のための10題	
早川 弘一	1144
臨床医のための神経内科学(8)	
神経内科最近の動き 荒木 淑郎	1256
〈検査でどこまでわかるか〉	
ベッドサイドの神経学的検査	
本多 虔夫	1258
眼球運動 清水 夏繪	1266
筋電図 飯田 光男	1268
脳波 寺尾 章	1272
〈鑑別診断のポイント〉	
頭痛 坂井 文彦	1274
めまい 濱口 勝彦	1276
しびれ 村井 由之	1278
歩行障害 高橋 昭	1280
痴呆 黒岩 義之・他	1282
〈診断基準〉	
多発性硬化症 音成 龍司・他	1284
Guillain-Barré 症候群	
若宮 純司・他	1287
重症筋無力症 宇尾野公義	1290
〈注目されている疾患〉	
Tolosa-Hunt 症候群 後藤 文男	1292
色素異常, 剛毛, 浮腫, 免疫	
グロブリン異常などを伴う	
慢性多発ニューロパチー	
佐野 元規・他	1296
Chorea-Acanthocytosis	
鬼頭 昭三・他	1298
〈治療の現状〉	
片頭痛, 筋収縮性頭痛, 三叉神経痛	
丸山 勝一	1300
顔面神経麻痺 鳥居 順三	1304
パーキンソン病 水野 美邦	1306
不随意運動(ヒョレア, ジスキネジア,	
ジストニー, ミオクローヌスなど)	
柳沢 信夫	1308
脊髄小脳変性症 祖父江逸郎	1310
重症筋無力症 西谷 裕	1312
〈座談会〉	
脳梗塞の診療をめぐる	

山之内 博・荒木 五郎
赫 彰郎・田崎 義昭 1315
今月の主題・理解のための10題
田崎 義昭 1328

肝硬変と肝癌(9)

肝硬変から肝(細胞)癌へ
一成因的立場から 市田 文弘・他 1446
一病理学的立場から 志方 俊夫 1452
〈どのようなとき癌化を考えるか〉
自・他覚症状 服部 信 1458
血液検査 岡部 和彦・他 1460
生化学的検査 遠藤 康夫 1464
アイソザイム 佐藤 清美 1468
免疫学的検査 浪久 利彦・他 1472
〈肝癌の画像診断—早期病変のみかた〉
シンチグラフィ 町田喜久雄・他 1474
CT スキャン 葦沢 龍人・他 1479
超音波診断法 大藤 正雄 1484
血管造影 有山 襄・他 1490
腹腔鏡診断 島田 宜治 1495
〈肝硬変の代謝異常とその対策—肝癌との関連から〉
アミノ酸 平山 千里・他 1504
糖 質 武田 和久 1508
糖蛋白質 田岡 賢雄 1510
脂 質 荒木 英爾 1516
核 酸 古田 精市 1520
ビタミン 武藤 泰敏・他 1522
〈肝癌の治療と対策〉
栄 養 西平 哲郎・他 1524
免疫調節剤 長島 秀夫・他 1526
制癌剤療法 岡崎 伸生 1528
腹水の治療—とくに肝硬変由来の
難治性腹水の対策 今井 深・他 1532
食道静脈瘤 杉浦 光雄・他 1534
塞栓療法 山田 龍作・他 1538
肝切除 山崎 晋・他 1540
〈座談会〉
肝硬変と肝癌をめぐる
遠藤 康夫・岡崎 伸生
佐々木憲一・岡部 和彦 1545
今月の主題・理解のための10題
岡部 和彦 1554

血小板の臨床(10)

血小板の多能性 安藤 泰彦 1650
〈血小板の基礎〉
血小板の形態と機能との関連
服部 晃 1652
血小板の調節機構 池田 康夫 1654
血小板と凝固因子 吉田 信彦・他 1658
血栓症の発生における血小板の役割
田中 健蔵・他 1660
動脈硬化の進展における血小板の役割
秦 葭哉 1666
モノクロナル抗体を用いた血小板研究
東原 正明・他 1670
〈血小板の検査〉
血少板機能検査 山本美保子・他 1672

血小板抗体の測定 杉浦 浩策 1674
血小板寿命—測定法とその意義
塚田 理康 1676
〈血小板の臨床〉
特発性血小板減少性紫斑病の治療方針
野村 武夫 1678
特発性血小板減少性紫斑病の
 α -グロブリン大量療法
安部 英・他 1680
血小板機能異常症の診断のすすめ方
山中 學 1682
血小板膜糖蛋白異常 渡辺 清明 1684
血小板放出異常症 藤本 欣吾・他 1686
骨髓増殖性疾患の血小板異常と
その対策 大熊 稔 1689
血小板型 von Willebrand 病
半田 誠 1692
巨核球白血病の電子顕微鏡による診断
渡辺陽之輔・他 1694
癌と血小板 神前 五郎 1696
〈疾患における血小板機能〉
糖尿病・高脂血症における血小板機能
都島 基夫 1698
腎疾患における血小板機能
寺田 秀夫 1704
血栓症における血小板機能
田上憲次郎 1706
〈抗血小板剤〉
抗血小板剤の薬理 日高 弘義 1710
血栓症での臨床成績—心疾患
本宮 武司・他 1714
血栓症での臨床成績—脳血管障害
松田 保 1716
〈血小板輸血〉
血小板保存の現況 湯浅 晋治 1718
血小板交差試験—手技とその臨床応用
雨宮 洋一 1722
血小板輸血不応状態—その対策
長澤 俊郎 1724

〈鼎 談〉
抗血小板剤の評価
日高 弘義・山崎 博男
池田 康夫 1727
今月の主題・理解のための10題
池田 康夫 1742

各種病態における抗生物質の使い方(11)

抗生物質使用時の留意事項
紺野 昌俊 1855
〈神経疾患〉
意識障害または中枢神経障害患者
の発熱 島田 馨 1860
細菌性髄膜炎 小林 裕 1862
開頭手術後の感染 神田 龍一 1864
〈呼吸器疾患〉
慢性呼吸機能低下患者の感染
谷本 普一・他 1866
肺癌患者の呼吸器感染
副島 林造・他 1868
気管切開またはレスピレータ使用

患者の感染 馬場 駿吉 1870
〈循環器疾患〉
心臓手術時の感染 井野 隆史 1872
心不全患者の発熱 佐藤 友英 1874
ペースメーカー植え込み時の感染
横川 正義 1878
感染性心内膜炎 木全 心一・他 1880
〈消化器疾患〉
開腹手術時の感染 相川 直樹・他 1884
胆管・胆嚢手術時の感染
中山 一誠 1888
下痢患者に対する化学療法
齋藤 誠 1890
〈腎・泌尿器疾患〉
腎機能低下患者の感染 齋藤 篤 1892
慢性複雑性尿路感染症 河田 幸道 1894
尿道カテーテル留置患者の感染
熊本 悦明・他 1896
〈その他の疾患〉
糖尿病患者の感染 山作房之輔 1900
副腎皮質ホルモン使用時の感染
齋藤 玲 1902
抗癌物質使用等の感染
蝶良 英郎・他 1904
血管カテーテル留置患者の感染
小林 寛伊 1906
敗血症 国井 乙彦 1908
〈各種疾患から検出される細菌の動向〉
血液培養から検出される細菌
紺野 昌俊 1912
喀痰から検出される細菌
那須 勝 1914
尿から検出される細菌 猪狩 淳 1918
〈新しい抗生物質の理解のために〉
 β ラクトム系抗生物質 横田 健 1922
アミノ配糖体系抗生物質
嶋田基五郎 1928
付)セフェム系抗生物質によるジス
ルフィラム(アンダーブース)様
作用 酒井 茂・他 1934
〈座談会〉
器質障害を有する患者の感染症
と化学療法
副島 林造・石引 久弥
熊本 悦明・紺野 昌俊 1939
今月の主題・理解のための10題
紺野 昌俊 1952

胃・十二指腸潰瘍—その基礎と臨床のすべて(13)

胃・十二指腸潰瘍の研究動向
並木 正義 2674
〈胃・十二指腸潰瘍の発生〉
疫 学 川井 啓市・他 2678
自然経過 小越 和栄 2680
消化性潰瘍の素因(体質と気質)
田中 康徳・他 2682
環境要因 川上 澄・他 2684
〈病因と病態生理〉
胃液の役割 矢花 剛・他 2688

胃酸分泌と壁細胞受容体	大江 慶治 2690
胃粘膜血流と胃粘膜防御機転	土屋 雅春・他 2694
プロスタグランディン	小林 絢三・他 2700
消化ホルモン	石森 章 2704
潰瘍と胃運動	伊藤 漸 2708
潰瘍と脳	松尾 裕 2710
〈胃・十二指腸潰瘍の臨床〉	
胃潰瘍と十二指腸潰瘍の差異	大柴 三郎・他 2712
急性胃潰瘍と慢性胃潰瘍の関連	竹本 忠良・他 2714
難治性潰瘍の定義と再発の要因	三輪 剛 2716
老年者胃・十二指腸潰瘍の特徴と問題点	大島 博 2720
小児胃・十二指腸潰瘍の特徴と問題点	並木 正義 2722
〈胃・十二指腸潰瘍の診断〉	
X線診断	熊倉 賢二・他 2726
内視鏡診断	小黒八七郎 2732
難治性潰瘍の診断	竜田 正晴・他 2736
〈胃・十二指腸潰瘍の治療〉	
内科的療法の基本方針	市岡 四象 2742
薬物療法の実際	西元寺克礼・他 2744
難治性潰瘍に対する内視鏡的治療法	一局所注射療法とレーザー療法
	原田 一道・他 2746
胃・十二指腸潰瘍の合併症とその対策	渡辺 豊 2750
手術適応	武藤 輝一 2752
〈座談会〉	
胃・十二指腸潰瘍の治療をめぐる	岡崎 幸紀・中沢 三郎
	比企 能樹・並木 正義 2755
今月の主題・理解のための10題	並木 正義 2766
Currrt topic	
人間ドックの現状と問題点	秦 葭哉・西崎 統
	内藤 周幸 (1) 124
新しい人工呼吸法 HFPPV	諏訪 邦夫・太田 保世
	金上 晴夫 (2) 298
腫瘍マーカーと癌のスクリーニング	遠藤 康夫・石井 勝 (3) 456
空気の流れとエアロゾル	日野 茂男 (4) 648
〈がん免疫振興財団「全人的医療に関するシンポジウム」から〉	
I. 全人的医療をめざして一末期医療の観点から	平山 正実 (5) 822
II. 末期癌患者の疼痛対策—モルヒネの投与と治療指針としての心理テストの応用	水口 公信 (5) 829
胆汁酸と病氣(1)腸肝循環の病態生理	大菅 俊明・多賀須幸男 (6) 1000

同上(2)胆汁酸の臨床—胆石の成因と溶解療法を中心に	大菅 俊明・多賀須幸男 (7) 1184
サルコイドーシス—10年の進歩	泉 孝英 (8) 1366
AIDS—最新の知見	木戸 友幸 (9) 1591
プライマリ・ケアと社会医学	福井 次矢 (10) 1774
アメリカ合衆国大統領医学および生物医学・行動科学研究における倫理問題検討委員会報告	中谷比呂樹・他 (13) 2804

PROFESSORS FROM ABROAD

第10回 WONCA 国際会議と家庭医学の今後の展望	J. フルーム・日野原重明
	渡辺 淳 (11) 1990

カラーグラフ：臨床医のための甲狀腺生検／藤本吉秀・小原孝男・平山 章

1. 甲狀腺穿刺吸引細胞診の意義と方法	(1) 86
2. 乳頭癌の細胞診所見	(1)(2) 260
3. 同上(2)	(3) 426
4. 同上(3)	(4) 614
5. 未分化癌の細胞診所見	(1) 784
	一巨細胞癌 (5) 784
6. 同上(2) — 小細胞癌	(6) 964
7. 腺腫様甲狀腺腫の細胞診所見	(7) 1148
8. 濾胞腺腫の細胞診所見	(8) 1332
9. 濾胞癌の細胞診所見	(9) 1558
10. 好酸性細胞腺腫	(10) 1746
11. 髓様癌の細胞診所見	(11) 1958
12. 針生検の適応と手技	(13) 2770

演習：目でみるトレーニング

坪川 孝志, 福井光治郎・他	
大藤 正雄, 可部順三郎 (1)	89
西村 稷, 片山 勲・他	
寺崎太郎・他, 鳥居順三・他	
早川 哲夫 (2)	263
高木 康行, 西村 稷	
平尾雅紀・他, 可部順三郎	
高守 正治 (3)	429
青木 正和, 上野文昭・他	
寺崎太郎・他, 村松 準・他	
平田 経雄 (4)	617
村松 準・他, 高橋 亨・他	
小林 祥泰, 平田 経雄 (5)	787
小林 祥泰, 福井光治郎・他	
松本慶蔵・他, 山口 巖	
大藤 正雄 (6)	967
村松 準・他, 松本慶蔵・他	
長谷川かをり・他, 早川 哲夫	
藤田安幸・他 (7)	1151
山口 巖, 平尾雅紀・他	
鳥居順三・他, 村松 準・他 (8)	1335
村松 準・他, 藤田安幸・他	

相沢信行・他, 永井 純	
兵頭 春夫 (9)	1561
兵頭 春夫, 長谷川かをり	
片山 勲・他, 武内俊彦・他	
琴浦 肇・他 (11)	1961
永井 純, 上野文昭・他	
武内俊彦・他, 山口 徹	
中村 芳郎 (13)	2773

グラフ

臨床医のための電顕写真

糸球体／坂口 弘	
1. 電顕写真のみかたの基本	(1) 98
2. 係蹄壁	(2) 270
3. メサンギウム	(3) 436
4. Deposit (沈着物)	(4) 624
血液／小川 哲平	
1. 急性骨髄性白血病	(5) 794
2. 急性前骨髄球性白血病	(6) 974
3. 急性単球性白血病	(7) 1158
4. 急性リンパ球性白血病とベルオキシダーゼ白血病	(8) 1342

肝 臓

1. B型肝炎の肝細胞障害機序	
—免疫電顕による検討	
小島 隆・他 (9)	1586
2. 肝細胞癌の超微形態像	
市田 隆文・他 (10)	1768
3. 黄疸の肝電顕像	
谷川 久一・他 (11)	1972
4. アルコール性肝障害の肝電顕像	
谷川 久一・他 (13)	2784

肺癌を疑うX線像

肺癌早期発見の現状と問題点／肺癌のX線像	
斎藤 雄二・他 (1)	105
撮影上の注意点	
西脇 裕・他 (2)	274

〈症例編〉

1. X線学的に無所見の型	
雨宮 隆太・他 (3)	440
2. 閉塞性肺炎像	
西脇 裕・他 (4)	630
3. 無気肺型	
西脇 裕・他 (5)	800
4. 小細胞癌を疑う腫瘍型	
雨宮 隆太・他 (6)	980
5. 淡い肺野腫瘍影	
西脇 裕・他 (7)	1164
6. 濃い肺野腫瘍影	
雨宮 隆太・他 (8)	1348
7. 肺尖部肋膜肥厚像	
西脇 裕・他 (9)	1572
8. びまん性散布性陰影	
西山 祥行・他 (10)	1754
9. びまん性網状影・線状影	
西脇 裕・他 (11)	1976
10. 胸水型	雨宮 隆太・他 (13) 2788
ボジトロン CT／穴戸文男・館野之男・山崎純四郎	

ポジトロン CT 診断法とは	(1)	110
脳血管障害への応用 (1)	(2)	282
同 上 (2)	(3)	444
精神・神経疾患への応用	(4)	636
脳腫瘍の診断への応用	(5)	807
心筋イメージングへの応用	(6)	987
NMR-CT/池平博夫・福田信男・館野之男		
NMR(核磁気共鳴)-CT とは	(7)	1170
NMR-CT の頭部への応用 (1)		
	(8)	1354
同 上 (2)	(9)	1568
NMR-CT の胸部への応用	(10)	1750
NMR-CT の腹部への応用	(11)	1968
NMR-CT の四肢その他への応用	(13)	2780
画像からみた鑑別診断		
肝疾患—腫瘍性病変 (1)		
山田 治男・福田 国彦		
川上 憲司 (1)		112
同 上 (2)		
山田 治男・福田 国彦		
川上 憲司 (2)		286
同 上—亜急性肝炎		
野原 秋男・福田 国彦		
川上 憲司 (3)		448
同 上—肝硬変		
野原 秋男・福田 国彦		
川上 憲司 (4)		640
脾疾患—慢性脾炎		
錢谷 幹男・多田 信平		
川上 憲司 (5)		810
同 上—脾癌		
錢谷 幹男・多田 信平		
川上 憲司 (6)		990
腎盂腫瘍		
大西 哲郎・多田 信平		
川上 憲司 (7)		1172
腎細胞癌		
大西 哲郎・多田 信平		
川上 憲司 (8)		1358
びまん性汎細気管支炎		
高木 寛・福田 国彦		
川上 憲司 (9)		1578
肺の結節性陰影		
高木 寛・福田 国彦		
川上 憲司 (10)		1760
閉塞性黄疸(1)—胆管腫瘍		
高橋 恒夫・多田 信平		
川上 憲司 (11)		1980
同 上 (2)—慢性脾炎		
高橋 恒夫・多田 信平		
川上 憲司 (13)		2794
シンポジウム：医学教育を考える		
1. 医師としての人格形成からみた		
卒前教育の問題点		
日野原重明 (1)		146
2. 卒業して感じる卒前教育の問題点		
釣巻 穰 (2)		320
3. プライマリ・ケアからみた卒前		

教育の問題点	
鈴木 莊一 (3)	478
4. 研修医を指導して感じる卒前教	
育の問題点 岩崎 栄 (4)	666
5. 日米の卒前教育の違い	
福原 俊一 (5)	844
6. 体験して感じる研修システムの	
問題点 高尾 信廣 (6)	1028
7. プライマリ・ケアからみた卒後	
教育の問題点	
村山 正昭 (7)	1218
8. 米国の家庭医教育からみた日本	
のプライマリ・ケア教育の問題	
点 木村 隆徳 (8)	1394
9. アメリカと比較して感じる日本	
の研修システムの問題点	
松枝 啓 (9)	1604
10. <討論会> (I)	
村山 正昭・松枝 啓	
高尾・信廣・岩崎 栄 (10)	1792
11. 同 上 (II)	
村山 正昭・松枝 啓	
高尾 信廣・岩崎 栄 (11)	2004
12. 同 上 (III)	
村山 正昭・松枝 啓	
高尾 信廣・岩崎 栄 (13)	2820
講 座	
図解病態のしくみ 神経・筋疾患	
1. 頭 痛 坂井 文彦 (1)	151
2. 失語, 失読, 失書	
岩田 誠 (2)	331
3. 脳幹症候群 平井 俊策 (3)	489
4. 運動麻痺と運動ニューロン疾患	
本多 虔夫 (4)	673
5. 不随意運動, Parkinson 病	
柳沢 信夫 (5)	851
6. 運動失調, 小脳障害	
新島 健司・他 (6)	1039
7. 感覚障害 高橋 昭 (7)	1239
8. 脳血管障害 神田 直 (8)	1399
9. 脳腫瘍 佐藤 修 (9)	1613
10. ミオパチー	
木下 真男・他 (10)	1819
11. 脊髄・脊椎疾患	
大和田 隆 (11)	2025
12. 脱髄疾患	
黒田 康夫・他 (13)	2847
臨床薬理学 薬物療法の考え方/中野	
重行	
休 載 (1,2)	
16. 肝障害時の薬物投与方法 (3)	495
休 載 (4~7)	
17. 老年者における薬物投与方法	
(8)	1411
18. 新生児・小児における薬物投与方法	
(9)	1629
休 載 (10,11)	
19. 妊産婦における薬物投与方法	
(13)	2841

コンピュータの使い方	
7. 画像処理 浅原 朗 (1)	157
8. アナログ情報処理—心電図の	
コンピュータ診断を中心に	
宮原 英夫・土肥 一郎 (2)	337
9. 診断の理論と応用	
開原 成允 (3)	503
10. 薬剤情報処理	
土屋 文人 (4)	679
休 載 (5)	
11. 病院内各部門におけるコンピュ	
ータ利用の動向	
坂部 長正・他 (6)	1045
12. コンピュータ応用の将来へ向けて	
三宅 浩之・土肥 一郎	
浅原 朗・開原 成允	
坂部 長正 (7)	1229
小児診療のコツ	
1. こどもを診療するにあたって	
大国 真彦 (7)	1223
2. 発 熱 堀 賢二 (8)	1405
3. 発 疹 天野 曄 (9)	1619
4. 咳と喘鳴, 呼吸困難	
正木 拓郎・他 (10)	1813
5. 下痢と脱水 菊島 竹丸 (11)	2033
6. 嘔 吐 藤森 宗徳 (13)	2853
境界領域	
転科のタイミング	
急性胆囊炎 牧野 永城 (4)	657
無症状胆石 中山 和道・他 (5)	834
閉塞性黄疸 高田 忠敬 (6)	1016
急性脾炎 小西 孝司・他 (7)	1198
急性動脈閉塞症—とくに心疾患に合併	
する動脈塞栓症 岩井 武尚 (8)	1382
自然気胸と胸膈 益田 貞彦 (9)	1596
大腸憩室炎 今 充 (10)	1786
下肢血栓性静脈炎	
後藤 久 (11)	1998
消化管出血 青木 照明 (13)	2814
他科のトピックス	
無月経不妊の新しい治療	
青野 敏博 (9)	1600
ベッドサイド	
First Contact	
腹 水	
池上 文詔・藤田 善幸	
吉岡 成人・西崎 統 (7)	1204
黄 疸	
池上 文詔・藤田 善幸	
吉岡 成人・西崎 統 (8)	1638
呼吸困難	
塚本 玲三・米倉 修司	
西崎 統 (11)	2039
喀痰・軽い咳	
塚本 玲三・米倉 修司	
西崎 統 (13)	2858
診療基本手技	
経鼻胃管の挿入法と低圧持続吸引の	

管理	吉岡 成人・他 (2)	328
Brompton mixture の使用法	高尾 信廣・他 (3)	486
直像検眼鏡の使い方	米倉 修司・他 (4)	686
胃洗浄	笠井 健司・他 (5)	860
腹膜透析の手技	岡田 定・他 (6)	1052
腰椎穿刺のコツ	大生 定義・他 (7)	1248
深部腱反射の診かた	大生 定義・他 (8)	1420
直流除細動 (DC ショック)	吉岡 成人・他 (9)	1626
胃液検査	角田 尚久・他 (10)	1826
皮膚テスト (アレルゲンの検索)	岡田 定・他 (13)	2857
臨床メモ		
第3世代のセファロスポリンの使用法	高橋 幸則・他 (2)	313
第1, 2世代のセファロスポリンの使用法	高橋 幸則・他 (4)	672
抗生物質使用中の発熱	北原 光夫 (10)	1812
クロラムフェニコール (CP) の使用法	北原 光夫 (11)	2024
CPC/旭中央病院		
変形性股関節症の手術後、痴呆および歩行障害、右上肢麻痺が進行し、発症後4カ月で死亡した63歳女性の例	〈司会〉金 弘 (1)	171
右腰部から右腹部にかけて激痛出現、嘔気・嘔吐、悪寒戦慄を伴った53歳主婦の例	〈司会〉村上 信乃 (3)	510
SLE の経過中に併発した肺病変を経気管支肺生検により診断した45歳の女性	〈司会〉吉田 象二 (5)	864
無尿、黄疸、呼吸苦を主訴とし、低酸素血症の治療に反応せず、入院後4日で死亡した54歳男性		

〈司会〉伊良部徳次 (8)	1423
めまい、腰痛、嘔気嘔吐を主訴とし、 CT にて脳に多発性の high density を認めた 31 歳男性の例	〈司会〉富田 伸 (10) 1829
アメリカの医療	
Via Air Mail	
スタンフォード大学小児科における 診療と教育 (1)	辻本 愛子 (1) 142
同 上 (2)	辻本 愛子 (2) 316
同 上 (3)	辻本 愛子 (3) 474
アイオワ大学麻酔科における研修 生活 (1)	松尾 成吾 (4) 662
同 上 (2)	松尾 成吾 (5) 840
同 上 (3)	松尾 成吾 (6) 1024
アメリカの救急医療 (1)	北井 暁子 (7) 1212
同 上 (2)	北井 暁子 (8) 1388
アメリカ留学を志す人に 辻本 愛子 (9) 1602	ウィスコンシン大学放射線科にお ける研修生活 (1)
菊池 陽一 (10) 1806	同 上 (2)
菊池 陽一 (11) 2018	同 上 (3)
菊池 陽一 (13) 2834	
米国家庭医学の発展／木村 隆徳	
5. 家庭医はどのような研究を行っ ているか (1)	138
6. 医学の第 2 革命—Millis, Willard 両報告書の意義 (2)	324
7. 米国の卒後医学教育認可機構 —その自主性 (3)	470
私の工夫	
マイコンによる Fisher の直接確率 計算法 駒ヶ嶺正純・他 (6)	1056
天地人	
らしくあるべきか 天 (1)	141

レコード今昔	楽 (2)	315
ノーベル賞の夢	犬 (3)	473
ショートパンツと大砲	天 (4)	661
3年目の本気—ファーブルの昆虫記	猫 (5)	839
道 草	聖 (6)	1023
年齢今昔	月 (7)	1211
卒業年次を止揚しよう	竹 (8)	1387
小粒なれども	聖 (9)	1601
生・老・病と死の医学	笹 (10)	1805
連綿輪廻	柳 (11)	2017
含羞の虫	病める猫 (13)	2833
ECHO		
	(11)	1997
表紙の解説		
心筋梗塞の剖検心	堀江 俊伸 (1)	5
SC-mediated Vesicular Transport Mechanism	磯辺 善成 (2)	191
肺の大切片標本と O ₂ -CO ₂ ダイアグラム	横山 哲朗 (3)	353
脾臓腺癌の細胞診	神津 忠彦 (4)	529
尿細管細胞における電解質の動き	越川 昭三 (5)	695
Mobile CCU	遠藤 真弘 (6)	883
発作性上室性頻拍誘発時の心腔内心電図	早川 弘一・他 (7)	1063
肺癌の転移による視床性痴呆	朝長 正徳・他 (8)	1255
N-OH-FAA 投与ラット16週のγ-GTP 肝組織染色像	岡部 和彦 (9)	1445
血小板内部構造の模式図	池田 康夫 (10)	1649
第3世代セフェム剤の殺菌力	紺野 昌俊 (11)	1853
胃潰瘍の X 線像と内視鏡像	岡村毅与志 (13)	2673

新刊

<PO CASE STUDY SERIES>

代謝疾患ケーススタディ 46例のPO研修

編集 垂井清一郎・葛谷 健

●B5 頁258 図31 写真51 原色図21
1983 ¥4,500 千3Q0

本書は、最も効果的な患者診療を自己学習するための模擬診療シリーズの1冊。臨床の場で起きるさまざまな戸惑いや疑問に答え、新たな臨床的知識を習得できるようにしながら読者自らが問題を解決し学べるように構成。代謝疾患ではなかなか見かけない珍しい症例も数多く収載、研修の目的を十分に果たせる内容になっている。

医学書院 1113-91 東京・文京・本郷5-24-3 ☎東京 (03)811-1101 振替東京7-96693